

芸術表現を通した「芸術の昇華機能」の探求や新たな可能性の模索、及び「パブリックアート」研究

造形短期大学部
造形芸術学科
教授

黄 禧晶



研究シーズの紹介

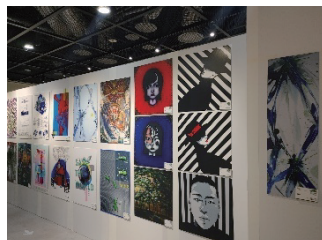
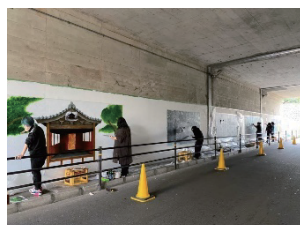
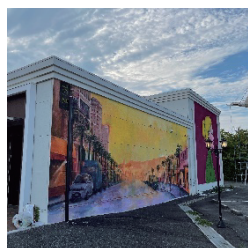
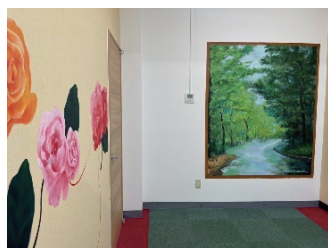
本研究者は「芸術行為を通しての芸術の昇華機能」に着目し、人間のあらゆる元型の分析を行うとともに、芸術のあり方に対する問いかけとして研究を続けてきた。近年は新たな研究テーマとして「ミチ」という課題に取り組んでいる。我々が歩んできた、歩んでゆく、その不明確なミチ、未知なミチをテーマとし、また混沌なカオスのミチに立ち、耐えない生命力

で糸口を探ってゆく過程を表現する。尚、芸術の昇華機能を更に身近な場で立証出来るパブリックアート（公共アート）研究も継続して並行してゆく。R3年も様々な公共の場においてそのニーズに合った壁面制作で行っていた。今年度も身近に触れる場に壁画制作などを行うことでパブリックアートの実践を遂げてゆく。



- ・アートを通したアートセラピー
- ・パブリックアート

- 芸術表現を通しての心の間の治癒が可能です。
- 公共の場で芸術作品を設置することで地域活性化が図れ、パブリックアートの実効性が立証出来ます。



期待される活用シーン

- パブリックアートにおいては対象地域の特性、景観、歴史に関連つけてのテーマや内容が求められる。



地域の歴史、風物、イベントなどを視覚化し、地域的话题性を呼び、波及力を持つ。次のプロジェクトへとつながる。



- ニーズに合わせたデザインの提案や描画力や柔軟性ある実行力が求められる。



描画力やコミュニケーション能力、持久力、応用力など、様々な能力が求められる巨大壁画制作を遂行できた。



その他の研究テーマ

・芸術表現を通した「芸術の昇華機能」の探求や新たな可能性の模索：絵画研究